

令和 7 年度第 3 回 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会
地域経済活性化に関する分科会
議事要旨

(1) 概要

開催日時	令和 7 年 11 月 10 日(月) 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
開催場所	荒川区役所 6 階産経部会議室
出席者 (敬称略)	(分科会委員) 委 員 長 遠藤 智久 委 員 鈴木 あづさ 委 員 竹前 友勝 委 員 野城 菜帆 (区側出席者) 産業経済部長 小林 弘幸 産業振興課長 山下 英男 経営支援課長 中野 大志 就労振興課長 伊藤 大介 観光振興課長 渡部 雅人 シティプロモーション担当課長 鈴木 利枝子
配付資料	・ 資料 1 デジタル化・DX に向けた区の取組等について ・ 資料 2 ものづくり企業間のネットワーク構築イメージ図

(2) 議事

議題	<ul style="list-style-type: none">○ 「区内企業のデジタル化・DX に向けて」<ul style="list-style-type: none">・ 区内事業者のデジタル化・DX の推進に向けてどのような支援が求められるか、事業者にはどのような取組が求められるか。・ 今後、事業経営にあたって AI をどう活用していくべきか、活用にあたって行政としてどのような支援が求められるか。○ 「ものづくり企業間のネットワークの構築に向けて」<ul style="list-style-type: none">・ 企業間ネットワークの構築や運営にあたり、どういった仕組み、プラットフォームが効果的か。
----	--

議事内容

1. 事務局からの資料説明

【区内企業のデジタル化・DXに向けて】

【ものづくり企業間のネットワークの構築に向けて】

これらのことについて、事例を交えながら事務局より説明がなされた。

2. 意見交換（各委員の主な発言）

【区内企業のデジタル化・DXに向けて】

・DXが進みにくい要因として、中小製造業に特化した既成のシステムが少なく、カスタム開発コストが高い点や、経営者が危機感を持っていないこと、具体的なビジネス課題として落とし込めない等が考えられる。

・若い世代を中心にITツール活用は進んでいるが、リーダー的なデジタルが得意な人の存在がDX推進の鍵である。

・職人的な技術の数値化・感覚をデジタル化する難しさもあり、どこまでをデジタル化するかなど線引きが必要。

・DX支援は段階的に、企業の状況やニーズに応じたプラン設計が求められ、セミナー開催にあたっては単に「DXセミナー」ではハードルが高い場合もある。支援が必要な方がセミナー参加につながるよう、セミナー見出しを「業務効率化」や「人材採用」など経営課題に即したものに変えることも必要である。

・区で様々なデジタル化支援を実施しているが、どこから手をつけたらよいか不明な方もあるため、気軽に相談できるような機能があると良い。また、その会社にあった段階的な支援体制も必要である。

【ものづくり企業間のネットワークの構築に向けて】

・登記可能な拠点があり、その拠点においてテーマ別交流会やセミナーを定期的に開催するほか、その場で金融機関にも相談ができると効果的である。オンラインよりリアルの場の方が参加・連携促進にもつながることから、このような拠点を提供するなど、行政が環境づくりに関わっていくことが必要である。

・コワーキングスペース等の機能がある「ふらっとにっぽり」が拠点の候補として考えられるが、現状、コワーキング機能が十分に周知されているとは言えず、PRに向けた工夫が必要である。

・西日暮里駅で計画されている再開発施設や、カフェなどでの気軽な交流イベントを開催するなど、快適かつアクセスの良い環境整備を進める必要がある。

(以上)